

〔教育実践報告〕

アクティブ ティーチング・ポートフォリオの試案 (課題学修について)

齋藤 亮子¹⁾

要 旨

大学教育改革の一環として、アクティブ ティーチング・ポートフォリオ (ATP) を試みている。2014年度に始まった1年生の「基礎ゼミナール」(30時間 1単位 必修)の一部「課題学修」のATPを作成して試行した。学生たち(11名)は相互に教え合い、学び合い、喜々としてやってくれ、全員がプレゼンテーションを行い、報告書を提出した。この経験は学生たちの自己効力感を高めるよい経験になった。今、ATPの評価をするのは早すぎると思う。今後も学生たちの成長を見守るとともにATPの検討を続けて行くつもりである。

キーワード: active teaching portfolios、基礎ゼミナール、課題学修、積極的学修者

I. はじめに

大学の学修は15時間の講義に対して15時間の予習と、15時間の復習を行って、合計で講義時間の3倍の学修を行い、単位認定試験に合格すれば単位を取得するという原則は、形骸化していないだろうか。15時間の予習・15時間の復習はほとんどされていないという調査結果が出ている¹⁾。

これは卒業要件を、128~131単位(本学平成26年度)以上として取得単位数が多いこと、1単位を15時間ではなく30時間、或いは45時間(実習)としている科目も多々あり、坐学で講義を聴いている時間数が非常に多くなっているからである。他には教員がすべてを講義しておかなければ安心できず、あれもこれも全部落ちが無いように講義をしたいという老婆心のなせる技であるとも考える。本来はもっともっと厳選して講義を行い、あとは学生が自ら進んで学修するという学修方法に切り替えて行く必要があると考えている。

平成26年度の本学のFD研修会はアクティブ ティーチング・ポートフォリオに関する研修会が2度行われ、学びが多かった、と同時に自分でも実践したいという思いに駆られた。文部科学省の大学改革要項を見ても授業改革の中でアクティブ ティーチングを行うように指導されている。著者は学生が大学ではアクティブ ラーニ

ングで学んで、卒業後には臨床で知らないこと(問題)に遭遇した時、「資料を探し」「読んで」「要点を把握し」「臨床に応用する」能力が最重要と考えている。

さて、今回は本学1年前期に開講されている「基礎ゼミナール」の単元「課題学修」のポートフォリオおよび、それに対する学生の成果を紹介し、諸先生のご意見・ご指導をいただき、さらに改良を加えたいと考え誌面を汚すことにした。

H.26年度 基礎ゼミナール

アクティブティーチング・ポートフォリオ —課題学修のみ—

課題学修の目的

ある課題(疑問または関心事)について個人で調べ、まとめて発表・報告する能力を修得する。

課題学修の到達目標

1. 課題について調べることができる(文献やネットを使って、課題について調べる方法が解る)。
2. 課題について調べたことを要約して記録しておく(文献カード2)を作成することができる。
3. 文献カードを分類し(似たものを集め)、グループ(塊)を作ることができる。

1) 弘前医療福祉大学保健学部看護学科(〒036-8102 青森県弘前市小比内3-18-1)

4. 分類したグループ間の相互の関連が解り、関係に筋道（起⇒承⇒転⇒結等、ストーリーという）がつけられる。
5. ストーリーに沿って資料を並べ直し、詳細が説明でき、書き綴ることができる。
6. ストーリーをパワーポイントでスライドに作成できる。
7. スライドを用いて、解り易く発表できる（制限時間内）。
8. 発表後、質問・助言を受け、改良することができる。
9. 自・他の発表を評価することができる。

課題学修の具体的方法

学 修 事 項	教員の説明・指示	結 果	反省・次年度の改善点								
<p>【課題学修】 事前予告 テーマの決定</p> <p>〈課題学修 1～3回〉 情報収集：</p> <p>情報とは：</p> <p>文献カード：</p> <p>カードの保存：</p>	<p>〈数週間前に〉 第11週～15週で行う課題学修のテーマ(課題)を各自決めておく。自由でよい。興味・関心のあるものがよい。 (楽しくできる)</p> <p>今日から3週間は各自のテーマに関する単行本、雑誌、新聞記事、チラシ等をできるだけ沢山集めて、読む。読んだら文献カード(資料1)を作成する。</p> <p>図書館での単行本や雑誌の探し方が解らなかつたら、司書さんに尋ねる。</p> <p>文献カードの作成方法： (単行本の場合) 著者： 書名： 出版社： 出版年： 内容：重要と思う点を要約して書く。 (雑誌の場合) 著者： 論文(記事)名： 雑誌名： 〇巻〇号： 出版社： 出版年： 内容：重要と思う点を要約して書く。</p>	<p>全員がテーマを決定した。</p> <table style="border: none;"> <tr> <td>〇〇疾患について</td> <td style="text-align: right;">3人</td> </tr> <tr> <td>医療専門職の歴史</td> <td style="text-align: right;">1人</td> </tr> <tr> <td>青森の文化・観光</td> <td style="text-align: right;">3人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">4人</td> </tr> </table> <p>文献カードの作成について質問等はなかった。教員も提出を求めなかったので、作成状況把握ができていない。</p>	〇〇疾患について	3人	医療専門職の歴史	1人	青森の文化・観光	3人	その他	4人	<p>本学の図書館は医療関係の専門書が大部分で、教養図書がほとんど無いと学生から報告があった。市立図書館や、〇〇大学図書館を利用させてもらうようにした(実際に本学以外の図書館をどの程度利用したか把握していない)。</p> <p>本学図書館の利用方法について全員一緒に司書さんからオリエンテーションを受けるよう計画した方がよかった。</p>
〇〇疾患について	3人										
医療専門職の歴史	1人										
青森の文化・観光	3人										
その他	4人										

学 修 事 項	教員の説明・指示	結 果	反省・次年度の改善点
<p>〈課題学修 4回〉 データの分類³⁾： ①文献カードの塊を作る ②塊間の特徴を見る ③塊間の関係を見る ④ストーリーをつくる ⑤ストーリーにそって塊を並べ直す ⑥内容を整理する ⑦文章を綴る</p> <p>〈課題学修 4回〉 次回の予告：発表会について</p>	<p>①文献カードを並べて内容の似ているもの集める。 ②いくつかの塊ができたなら、 ③塊間の関係を見て、 ④ストーリーをつくる。 ⑤並べ直す ⑥内容をストーリーに沿って整理する ⑦文章を綴る</p> <p>発表者：順番を決める 発表時間：一人7分 (発表5分 質疑2分) 発表方法：パワーポイント、または紙に書く スライドの作り方(初めての人は齋藤の研究室へ) 紙(模造紙またはA3用紙を用いる) 配布資料：各自11人分印刷(コピー)して来る。 司会：前半 1名 後半 1名 発表内容： ○この課題に取り組んだ理由(動機)を述べる ○この課題に取り組んで学んだことを述べる。 発表者：練習をして来る。 評価：全員がする。 評価用紙：別紙(資料2) レポート作成：質問や意見を参考に発表者は原稿を修正して翌週に提出する。</p>	<p>まとめの段階に入っても学生の質問は無かった。 パワーポイントを用いたスライド作成に関する、指導も求められなかった。</p> <p>発表順：出席簿順</p> <p>多くの学生がパワーポイントを用いたスライド作成は初めての体験で、非常に難しかったが、なんとか完成させることができて、大変嬉しかったと語っていた。今後この技術を役立てたい、とも述べていた。</p> <p>司会：2名決定 タイムキーパー：2名決定</p>	
<p>〈課題学修 5回〉 発表会：○月○日</p>		<p>司会者、タイムキーパー、発表者：きちんと時間を守って進化した。 配布資料：全員カラープリントで作成していた。 発表会後の学生の意見： 自分の興味あることが調べられ、基礎ゼミのみんなに伝えることが出来て楽しかった、と満足していた。 初めてで上手くは出来なかったけど、沢山の人の前で自分の調べた事を発表するという事はとても良い経験になった、とも述べていた。ゼミのみんなは笑ったりせず、真剣に聞いてくれるので、失敗しても大丈夫という気持ちでできた。発表する力がついた、と自信をつけていた。他人の発表を聞いて学ぶことがあり良かった、と学生間でも学んでいた。今後この学びを活用していきたいと語っていた。</p> <p>レポート： 手書きでA4版2頁のもの～ワープロ(1600字詰)でA4版13枚のレポートまで様々提出された。 学生の意見： 普段自分ではできないようなレポート作成を行った。良い経験になった。</p>	<p>発表はよくできた。発表時間と質疑応答時間はもう少し長めが良かった(+1～2分)。学生の希望により発表時間を決定するのも良いかもしれない。 評価：評価表を記入する時間を取っていなかったため、評価表が全く記入できなかった。評価が意外にも難しく、時間がかかるものである事を改めて痛感した。 来年度から発表は2コマとり、十分検討して評価する時間を取りたい。</p> <p>学生の力の個人差は大きかった。教員にはこの差をどうして埋めるかが課題である。</p> <p>レポートのテーマと内容が微妙にずれることがあるので学生に注意する必要があると思われる。</p>

表 1 文献カード

文献カード	学籍番号	氏名
資料№		
取得日		
著者 題名 出典		
内容		
参考になる点		
備考		

課題発表評価表

発表者：

評価者：

評価項目	点数				備考
1 動機が述べられているか。	10	8	6	5以下	
2 テーマに関する資料が十分に集められているか。	10	8	6	5以下	
3 資料が分類・整理されているか。	10	8	6	5以下	
4 結論を見つけ出しているか。	10	8	6	5以下	
5 発表を聞いて学ぶことが多かったか。	10	8	6	5以下	
6 パワーポイントは要点を押さえて作成しているか。	10	8	6	5以下	
7 パワーポイントは見やすいか。	10	8	6	5以下	
8 発表時間を有効に活用しているか。	10	8	6	5以下	
9 発表態度は落ち着いているか。	10	8	6	5以下	
10 課題が時宜を得ている。	10	8	6	5以下	
合計点					点

10=大変よい 8=よい 6=普通 5以下=やや悪い、悪い

倫理的配慮： 結果欄に採用した学生の成果や意見・感想は学生の提出物や講義室で発した言葉や講義後に書いた意見・感想の一部である。報告書に使用することを学生に説明し、個人が特定されることが無いように注意して使用し、成績とは関係が無いことを説明して、口頭で承諾を得た。

課題学修ポートフォリオの評価と今後の課題

課題学修の目的について： 全員それぞれが最善を尽くして発表できたので目的は達成されたと判定する。その理由を箇条書きにしてみると、以下のようであった。

- イ 「個人ワーク」であったので、とにかく自分でやらなければならないかった。
- ロ 「楽しくやれる」テーマを選んだので、なんとか苦にならず最後までできた。
- ハ 人間関係がよく友人間で教え合い、学び合い、失敗しても恥ずかしいと思わなくてよい関係であった。(人間関係づくりには放課後に「お茶する」機会を持つのも効果がある)
- ニ 「スライドが作成できた」「人前で発表できた」等が自信になり、自分にもできるという実感を得た。これからもこの技術を活用したいと思えた。
- ホ 評価表を実際には記入しなかったが、評価項目は示したので要点は何か理解できた。

発表会を終わって、良くできた人も多少不十分であった人も学生全体に達成感、満足感がみなぎっていたと思う。「このワークには初めてのことが多く、勉強になった」というのが学生の感想であった。

課題学修の到達目標について：目標1と目標5～9は明らかに達成できた。しかし、目標2～4については教員が点検しなかったので不明である。ポートフォリオと

いう特性上、点検を入れた方がよかったと反省する。

課題学修の具体的方法について：反省・次年度の改善点の欄で述べてきたので割愛する。

以上のことから「課題学修のアクティブ ティーチング・ポートフォリオ」は初年度としては学生の努力で一応の成功をみたと考えたい。今後は比較的大きな学生の能力差をいかにして縮小していくかが課題である。また、このポートフォリオを追試しながら、改良を加えたい。

(受理日 平成27年3月13日)

引用・参考文献

- 1) 日本私立看護系大学協会編：大学における教育に関する事業報告書 主体的な学び体験を作る大学授業法、平成25年度 報告書、発行 日本私立看護系大学協会、2015.
- 2) 梅棹忠雄：知的生産の技術、岩波新書、1969.
- 3) 川喜多二郎：発想法、中公新書、1972.
- 4) 黒田裕子：看護研究 step by step 第4版、医学書院、東京、2012.
- 5) 大関信子：看護教育にポートフォリオの導入を、Quality Nursing, vol.6 no.3, 2000.
- 6) 浅田豊：「新しい学力観」に立つ日本の学校教育におけるポートフォリオ学習の可能性と意義、Quality Nursing, vol.6 no.3, 2000.
- 7) 唐澤由美子、正木治恵他：達成事項を記録したポートフォリオ評価、Quality Nursing, vol.9 no.6, 2003.
- 8) 安川仁子：ポートフォリオ評価に対する認識の違い—看護学校教員・臨地実習指導者・看護師—、第43回日本看護学会論文集 看護管理、2013.

Active teaching portfolios- a tentative plan (solving one's problem)

Ryoko Saito

Hirosaki University of Health and Welfare, Department of Health, Section of Nursing

Abstract

To develop an educational enlightenment system for promoting student's qualities in the University, the seminar as one of the active teaching portfolios (ATP) was designed and carried out to the freshmen as the required subject for the 1unit of 30 hrs. in 2014. Before initiating seminar I demonstrated first criteria on how to solve the issues by using the ATP manual. 11 students were positively reacting for the teaching & learning program each other, and all of them presented their works to the class, and wrote their papers. These experiences were very important for them, they won self-efficacy. And its system appeared working effectively on the research subjects diligently. It was however a little early for evaluation of the ATP efficacy and await for some time to get definite answer.

Key words: active teaching portfolios, student, solving one's problem, self-efficacy